

CIC Japan 5th ANNIVERSARY

Five-Year Progress and Future Prospects



cic

CIC Tokyo

〒105-6415 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー 15階

CIC Fukuoka

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号 ONE FUKUOKA BLDG. 7階

<https://jp.cic.com/>

cic

私たちと、イノベーションの物語

5周年を迎えたCIC Japan。設立の前史も含めて、その足跡をたどります。



このたび CIC Japan の5周年 を迎えることができ、大変うれしく思います。2015年にCIC Japan 構想を描いて以来、この節目を迎えられたのは、ひとえに入居いただいている皆さまのご尽力とご協力のおかげです。

皆さまの情熱と果敢な挑戦こそが、CICの存在意義を形づくる原動力となっています。世界が大きく変化するこの時代において、皆さまの取り組みは一層重要な意味を持っています。

心より感謝申し上げるとともに、私たちはこれからも皆さまの成長と成功を支え、共に未来を築いてまいります。

創業者兼CEO ティム・ロウ

2015

創業者のティム・ロウとCIC Japan会長の梅澤高明が東京で再会。
CIC Tokyoの構想を聞く。

2016

名倉勝がマサチューセッツ工科大学大学院留学中に本国でCICに出会い、CICの日本進出プロジェクトに参画を始める

Boston在住時代の共通の友人がきっかけで現CIC Tokyoゼネラルマネージャーの平田美奈子が創業者ティム・ロウの日本進出プロジェクトコーディネーターとしてCICでの業務に参画

2017

バブソン大学の山川 恭弘がVenture Café参画。JT、損保ジャパンなどが最初のスポンサーとなる

7月 バブソン大学在籍時より山川と仕事を共にしていた現Venture Café Tokyo代表 小村 隆祐が山川の招きで参画
JT、損保ジャパンなどが最初のスポンサーとなる

3月 JETRO・対日投資・ビジネスサポートセンター (IBSC) アークヒルズで
CIC/Venture Café Tokyoをローンチ

2020

5月 現CIC Institute Directorの名倉勝がDirector of Community DevelopmentとしてCIC Tokyoに入社

7月 NAGOYA CONNÉCT開始

8月 TSUKUBA CONNÉCT開始

9月 ディープテック分野のスタートアップ支援事業を開始

9月 Japan Desk が JETRO Innovation Program による、日本のスタートアップの
ボストン・ケンブリッジ地域展開支援を開始

10月 コロナ禍でのCIC Tokyo始動。 オープニングイベントには、東京都の小池百合子知事、
衆議院の平将明議員、東京大学の五神真総長も出席

2021

3月 環境省「環境スタートアップ大賞」授賞式をCIC Tokyoで実施

6月&7月 森ビルと共同でCIC Tokyo入居者へのワクチン接種を提供

6月 CIC Tokyo入居社100社

11月 GIFU IGNITE開始

2022

2月 岸田文雄首相(当時)が「スタートアップ創出元年」の宣言にあたり、
CIC Tokyoを訪問し スタートアップと意見交換を実施

4月 エマニュエル在日米国大使がCIC Tokyoを訪問し、
CIC Tokyoの経営陣や入居する起業家と意見交換

7月 入居企業のunerryがCIC Tokyoで第1号IPO

10月 OIC(立命館)CONNÉCT開始

11月 小池百合子東京都知事が来館し、東京都の新たなスタートアップ戦略
「Global Innovation with STARTUPS」の記者会見実施

2024

2月 Victor MulasがChief Innovation OfficerとしてCICに参画。これにより、CIC Tokyoは初めてグローバル
Cレベルのリーダーを迎え、国際的な視座とネットワークを持つ経営体制を確立

4月 Venture Café Tokyoが挑戦者の第一歩目を支えるアントレプレナーシップ教育プログラム
Community Campus の提供を開始

5月 韓国中小ベンチャー企業振興公団 (KOSME)がCIC Tokyoに日本拠点K-スタートアップセンター東京を開設

11月 CIC Tokyoの当時セールスディレクターだった清水邦彦がCIC Fukuokaゼネラルマネージャーに就任

11月 Venture Café Fukuoka | YOKOHAMA CONNÉCT始動

9月 CIC Tokyoの入居企業である sakana AIが日本最速ユニコーンとなる

2025

4月 CIC Fukuoka開設

2026

春(予定) 日本生命とのパートナーシップにより
大阪「Nakanoshima Qross」に
ライフサイエンス特化型拠点開設予定

CIC Japan 挑戦と共創の5年間を振り返る

2020年、コロナ禍のただ中に産声をあげたCIC Tokyo。
「無謀」と言われた挑戦は、いまや200を超える
スタートアップが集うコミュニティへと育ちました。
その立ち上げを担ったふたりとともに、5年間の歩みを振り返ります。

ボストンでの経験こそが「原点」 スタートアップの集積地を東京に

平田:振り返って見ると、私たちは同じ時期にボストンで暮らしていたんですね。今から10年くらい前になるのかな。名倉さんは、スタートアップのエコシステムをリサーチされに来ていたんですね。

名倉:そうですね。当時からボストンは、スタートアップの集積地でしたから。バイオテックやロボテック、クライメイトテックといった先端技術を取り扱う企業や研究機関が、ひとつの街のなかにぎゅっと集まり、まさにひとつのエコシステムを形成していました。

平田:本当に、すぐ身近に起業家や研究者がいる街でしたね。

名倉:カフェでたまたま知り合って仲良くなった人が、著名な起業家だったり(笑)。街全体がコミュニティのように機能していて、その中心的存在がCICであり、創業者のチーム・ロウでした。



平田:毎週木曜日にはCICでイベントが開催されていたでしょう？

名倉:「Thursday Gathering」ですね。MITのすぐ横という好立地もあって、毎回数百人ものスタートアップ関係者が集まっていた。あの熱気は忘れられません。こうやって話していると、やっぱりボストンでの経験こそが、私たちの「原点」なんだと気づかされます。

平田:当時からスタートアップ業界を注視していた名倉さんから見て、あの頃の日本にCICのような場所はあったと思いますか？

名倉:まったくなかった、と言っていいはずです。スタートアップの活

躍を支える制度も環境も整っていない状況でした。けれど一方で、ティムは日本経済のポテンシャルを高く評価し、若い起業家たちが集い、ともに成長しあえるエコシステムがあれば、そこから新たなイノベーションが生まれるはずだと確信していた。そんな想いに私たちも共感し、2020年に立ち上げたのがここCIC Tokyoです。

コロナ禍という逆風のなかでの船出 それでもリアルにこだわり続けたわけ

平田:とはいえ、2020年といえばコロナ禍の真っ只中。そんななかで、不特定多数の人が訪れることを前提としたインキュベーション施設をつくることを「無謀だ」とする声も多かったですね。**名倉:**私たちが大切にしている、「物理的な距離の近さ」や「密度」というコンセプトは、感染拡大防止策とは相性の悪いものでしたからね。それでも、スタートアップを支援するなら、やっぱりリアルな場をつくるのが大切だという思いは変わりませんでした。

平田:同感です。だからこそイベントも、なるべくリアルにこだわりました。オンライン参加とのハイブリッドも模索しながら、それこそ名倉さんがひとりで現場でカメラを回していたり(笑)。

名倉:何でも自分たちでやってみるというのが、スタートアップ精神ですからね(笑)。でも、セールスディレクターを務めていた平田さんも、立ち上げ当初は営業に相当苦労されたと思います。

平田:コロナ禍もそうですが、何より施設そのものがまだ完成していなかったで……。イメージ図だけで、どうやってこの場所の魅力を説明したらいいのか。私自身、試行錯誤の連続でした。それでも、「オフィスを売るのではなく、一緒にコミュニティをつくりたいんだ」という私たちの想いに共感してくださる方が、少しずつ出てきてくださって。そのひとりが、最初の入居者であるエノラさんという女性起業家です。

名倉:彼女は5年が経った今も入居してくださっている、私たちにってはある種の「伝説的なクライアント」のひとりですね。

平田:Venture Café Tokyoの活動を起点に、既にコミュニティの下地ができていたこともありがたかったですね。そこから口コミを中心に徐々に入居者さまが増えていき、今ではほとんど満室の状態が続いています。



CIC Tokyo ゼネラル・マネージャー

平田 美奈子

早稲田大学法学部卒、米マサチューセッツ州立大学大学院MBA。経済系シンクタンク勤務を経て、Venture CaféおよびCICのアジア進出のプロジェクトマネージャーとして立ち上げに参画。CIC Japan設立後は、セールス・ディレクター、オペレーションGMを経て、現職。一般社団法人ベンチャーカフェ東京理事を兼任。

CIC Institute ディレクター

名倉 勝

東京大学工学系研究科博士課程修了(核融合工学)、マサチューセッツ工科大学修士課程終了(システム・デザイン&マネジメント)。文部科学省でスタートアップ政策などを担当した後、経営コンサルティング、ベンチャーキャピタルを経てCIC Tokyoに参画。東京科学大学特任教授、一般社団法人スタートアップエコシステム協会理事も兼務。

挑戦はまだはじまったばかり 進化し続けるエコシステムをともに

名倉:多くの方が私たちの理念に共感してくれたのは、立ち上げ当初から「ディープテック」「グローバル」「ダイバーシティ」という3つの価値観を掲げ続けてきたことも大きいと思います。日本には世界トップレベルの研究力があり、「ディープテック」の領域には間違いなく勝ち筋がある。そのうえで「世界とつながるきっかけ」や「多様な人材が活躍できる場」をつくってあげれば、新たなイノベーションは必ず生まれるはずです。

平田:2023年には、名倉さんを中心として、スタートアップの成長支援やエコシステム構築業務を担う専門チーム「CIC Institute」も発足しました。

名倉:イノベーションの創出を、力強く後押しする体制が整ってきたことに、手応えを感じています。平田さんは、この5年間で、特に嬉しかったことはありますか？

平田:やっぱり嬉しいのは、入居者の皆さんから「ここに決めてよかった」と言ってもらえたときですね。入居者さまとの距離も近いから、小さなオフィスからはじまったスタートアップが、大きく羽ばたいていくのを間近で見られる。CIC Tokyoを「成長の舞台」として選んでいただいたことに、心から感謝しています。

名倉:本当ですね。一方で、私たちの挑戦は、はじまったばかりだとも感じています。日本でユニコーンと呼ばれるスタートアップは、まだまだわずかです。だからこそ、私たちもCIC Japanとして国内の拠点をさらに増やしていくとともに、そのネットワークをアジアまで広げていかなければならないと思っています。そうやって「新しいことが起こり続けるスタートアップエコシステム」を構築することが、私たちの使命です。

平田:入居者の皆さまをはじめ、これまでCICに関わってくださったすべての人たちと一緒に、そんな「未来が生まれる場」をつくっていきたいですね。

ディープテック、グローバル、ダイバーシティ
3つの旗のもとに集った仲間とともに
未来への新たな一歩を、ここから

数字で振り返るCIC Japanの歩み

CIC Campuses

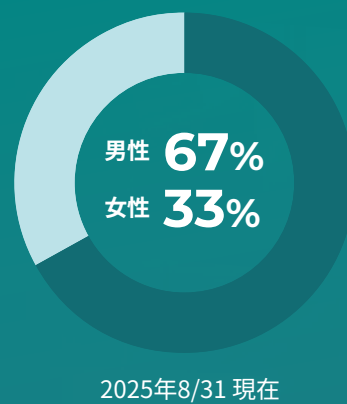
累計入居企業数



累計会員数



男女比



外国籍入居率



総来館者数



総資金調達額

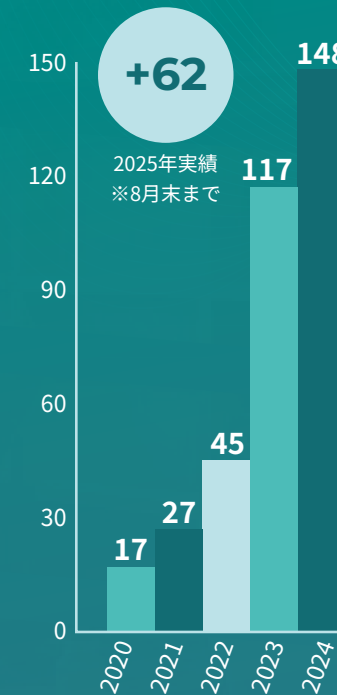


コミュニティ
イベント総回数

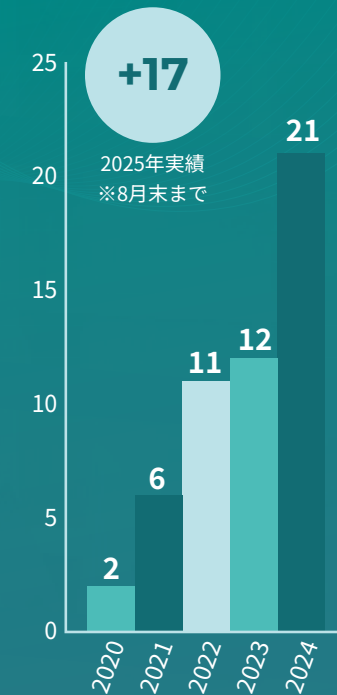


CIC Institute

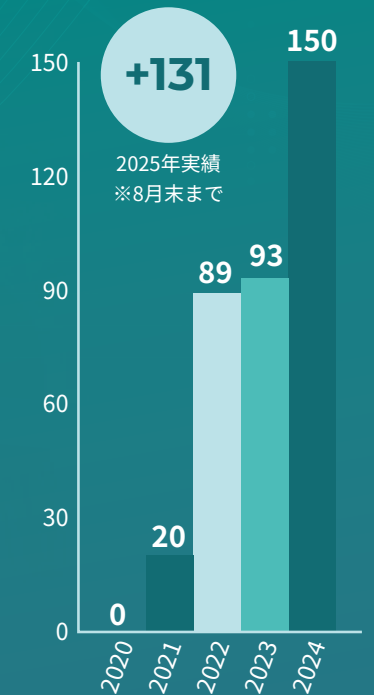
CIC Institute
支援スタートアップ数
累計 **416** 社



CIC Institute
受注プログラム数
累計 **69** 件



CIC Institute
実施・共催イベント数
累計 **483** 回



Venture Café

Venture Café
イベント延べ参加者数



Venture Café
累計イベント回数



これからも「CICer」として

当時の静けさから比べれば、今日のCIC Tokyoの盛況は隔世の感があります。時間が経つに伴ってCIC Tokyoのコミュニティの質は変化してきましたし、それは他のどのCIC拠点とも似ていない、東京独自のユニークなものになっていると思います。CIC Tokyoが、アメリカ的な精神性の影響を引き継ぎながらも、東京らしいスタートアップの連帯の形を見出し続ける未来にワクワクしています。私個人としてもメタジェンセラピューティクスとしても、これからも永遠に「CICer」だと思っています。5周年おめでとうございます！



CIC Tokyo 5周年おめでとうございます! 当時は十数名だったアスエネが、今では450名を超えるチームへと成長しました。多様なスタートアップが集まるCICでの日々は、多くの学びと刺激に満ちており、事業をグローバルに加速させる大きな原動力となりました。5年間の軌跡に心から感謝するとともに、これからも一緒に未来を創っていきましょう!



CIC Tokyoで得た出会いと学びが、今の私たちを支えています。虎ノ門が日本のスタートアップの中心地として輝きを増すなか、5周年を心よりお祝い申し上げます。



さらに広がるCICコミュニティ

CIC Japanの活動は、東京だけには留まりません。
大阪・福岡というふたつの都市でも、それぞれの街の文脈を踏まえた
新たなイノベーション拠点の創出がはじまっています。



CIC Fukuoka

アジアの玄関口・福岡で
新たなイノベーションを

CIC Japanと西日本鉄道株式会社が、福岡市の中心地・天神に位置する「ONE FUKUOKA BLDG.」内に開設したイノベーションキャンパス。アジアの玄関口である福岡から、世界へ羽ばたくイノベーションを後押ししています。



西日本鉄道株式会社
天神開発本部福ビル街区開発部課長
永井 伸 さま

CIC Fukuoka 担当者メッセージ

多様なつながりこそが、新たな価値を生み出す
天神発のユニコーン企業をともに育てたい

私たち西鉄グループは、福岡・天神エリアで、さまざまな人・物・情報が交わり、新たな価値を見いだす『創造交差点』というコンセプトを掲げた大規模複合ビル「ONE FUKUOKA BLDG. (ワンビル)」を、2025年春に開業しました。その一環として、イノベーションのエコシステムを構築できるパートナーを探すなかで出会ったのがCICでした。なかでも期待していたのが、そのグローバルなネットワークです。実際にCIC Fukuokaの開業以来、中国や台湾、韓国をはじめとしたアジア各国をはじめ、海外からワンビルを

訪れる起業家や投資家が、目に見えて増えてきました。それによって街にも、これまでになかった多様な賑わいが生まれつつあります。こうしたグローバルなつながりは、アジア進出をめざすスタートアップの拠点として、あるいは日本展開を進める海外のスタートアップの国外拠点として、天神が選ばれるための確かな土壌となっていくはずです。ここCIC Fukuokaから世界へと羽ばたくユニコーン企業を育て、新たな価値や文化を発信し続けていくために。CIC Japanの皆さまの、変わらぬご支援を期待しています。



CIC Japan 会長

梅澤 高明

CIC Japan設立5周年にあたり、皆さまに謹んで御礼申し上げます。

CIC TokyoおよびCIC Fukuokaに入居いただいている企業の皆さま、CIC Instituteのスタートアップ支援プログラム、Venture Caféならびに各種イベントを支えてくださるスポンサー・登壇者・参加者の皆さま、そして森ビル株式会社・西日本鉄道株式会社をはじめとする関係各位の力強いご支援により、私たちは挑戦と革新が絶え間なく生まれる日本を代表するスタートアップ拠点へと成長することができました。今後も東京・福岡のコミュニティのさらなる発展、2026年春に日本生命保険相互会社と共に大阪・中之島に開設を予定する新拠点をはじめとした各都市への展開、さらには海外との連携を通じて、日本のスタートアップエコシステムの飛躍に貢献してまいります。引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



(仮称) Life Science Innovation Campus

大阪・中之島にライフサイエンスの
新たな集積地が

CIC Japanと日本生命保険相互会社が、2026年春に「Nakanoshima Cross」内に開設を予定するライフサイエンス特化型のイノベーションキャンパス。創薬やヘルスケアなど、ライフサイエンス分野の企業やベンチャーキャピタル(VC)の国際性溢れる集積地を目指します。



日本生命保険相互会社
ヘルスケア事業部(大阪)
ヘルスケアアライアンス担当部長

椎野 友介 さま

(仮称) Life Science Innovation Campus 担当者メッセージ

医学の伝統と未来が交差する大阪・中之島から
新たなイノベーションを世界に

CIC Tokyoにはじめて訪れたときのことは、今でも忘れられません。施設や設備のクオリティの高さ、スタッフの皆さまのホスピタリティ、そして何よりさまざまな企業が垣根なしに混じり合っているオープンな雰囲気、大きな感銘を受けました。そんな拠点づくりに世界各地で取り組んできたCICとともに、最先端医療の社会実装拠点である「Nakanoshima Cross」に、ライフサイエンスに特化した新たなイノベーション拠点をつくりたい。そう思ったことが、今回のコラボレーションのきっかけでした。

大阪・中之島は、古くから医療・医学と縁の深い土地です。江戸時代後期に緒方洪庵が開いた蘭学塾「適塾」を原点とする大阪大学開校の地でもあります。そして万博を契機に、再び大阪は「ライフサイエンスの街」として世界から大きな注目を集めています。グローバルなネットワークを有するCICとの共創で、この流れはさらに加速するでしょう。ここ大阪・中之島から、ともに未来を切り拓いていけることを、心より楽しみにしています。